令和8年度 藤枝順心中学校・高等学校 学校評価（前期）　（評価規準　A:十分に実践されている　B:ある程度実践されている　C:不十分である　D:分からない）

建学の精神　女性の自律・自主と先度他の心の涵養

教育目標　白梅精神のもと、「清楚な生徒」、「芳香を発する生徒」、「忍耐のできる生徒」を育てる。

本年度の重点目標　①積極的な情報発信　②危機管理意識の高揚　③順心の良さを小中学校にアピール　④生きる力の育成　⑤社会生活に適応する力の育成　⑥自己管理の育成　⑦第一志望校を目指させる指導

重点目標	評価項目	(1) 具体的方策 (2) 評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
①積極的な情報発信	ＳＮＳの活用	(1) 具体的方策 インスタグラムでの情報発信を中心に、積極的な情報発信に努める。 (2) 具体的指標 インスタグラムの投稿数が年間１００回以上となることを目標にする。 １００回以上　… Ａ ７５回以上　… Ｂ ７５回未満　… Ｃ	A	・９／１５の時点で４０回程度の投稿がされていて、フォロワーが１３８０人、閲覧数も１５，０００回～３０，０００回に上っている。学校のインスタグラムとリンクしていないもので２０～３０の投稿は確実にされているので、今後は「共同投稿」を活用して各部・各学年・各スタイルの投稿をリンクさせ、学校全体でとりまとめをしていく。	A	・インスタグラムの投稿数、閲覧数が増加したことはとても素晴らしいと思います。ただ、ハイライトは大切な情報をプロフィール上の目につく場所に保存表示できるのですが、ふるい投稿がそのままになっていたので、新しい情報に置き換えた方が良いと思います。 ・昨年度は同時期に50回の投稿数でした。投稿回数は減っていますが、フォロー数は確実に伸びているので、成果が上がっていると思います。ただ、昨年度は後半に投稿数が伸びずに評価もＡ→Ｃになってしまいましたので、昨年の反省を生かして欲しいと思います。 ・学校の行事や様子、部活等、インスタグラムで順心の投稿を見ることが増えたように感じます。 ・時間があいた時に見ています。学校の様子がわかり、受験生なども参考になって良いと思います。 ・目的は？ブランディングがしっかりと決まっていれば、発信数、内容がまとまるのでは？何目線で誰対象？ ・常に写真をアップするだけではない業務であり、とても大変であると思います。藤枝順心らしい日常を少しずつ届けられると良いと思います。
②危機管理意識の高揚	体験型防災訓練・不審者対策防犯訓練の実施	(1) 具体的方策 体験型防災訓練及び不審者対策防犯訓練を実施し、生徒及び職員の危機管理意識を高める。 (2) 具体的指標 防災訓練及び防犯訓練後にアンケートを実施し、「役に立った」と感じる生徒・職員が９０％以上を目標にする。 ９０％以上　… Ａ ８０％以上　… Ｂ ８０％未満　… Ｃ	A	・猛暑の中での避難訓練で、「グラウンドではなく体育館へ」という声が上がったが、実際の避難経路や安全確保の確認といった事を考えると、短時間にして計画通りにやってよかったと思われる。 ・救助袋(避難シュート)の組み立て方や収納方法も総務・管理課の課員で確認した。 ・アンケートは火災避難訓練や不審者対策防犯訓練とあわせて後期に実施する。	A	・しっかり取り組みされている思います。先生と生徒とで、「今の状況がこんな場合だったら、行動する？」など、ケーススタディをする。最適な行動とはどうなのか考える。そういう授業も必要だと感じます。 ・災害はいつ起こるかわからないので、猛暑に限らず、様々なパターンを経験していくことが大切です。また、「もし、〇〇の状況で、～が起きたら、自分はどう動く」など、仮定から考えられることを話し合う場があるとなおよいと思います。 ・危機管理意識も良いが、訓練はこれまでも重ねてきている。こんな時どうする？どんなことができる？避難所でできること等のシミュレーション・ディスカッションがあると、主体的に意識がつくのでは？逃げるだけではなく、家庭でも、地域でも助かる。 ・もしもの時に生徒が進んで行動できるよう、実際に救助袋等の使い方を知っておくのは、とても大事だと思います。それができているようで、安心しました。 ・様々な災害が多くなっているので、各訓練の徹底や保護者との連携の対策もあると良いかと思います。 ・災害につきものなのが怪我ですね。AEDの使い方、応急処置の仕方なども学べると良い。
③生きる力の育成	ＩＣＴを活用した主体的な学びの推進	(1) 具体的方策 生徒が授業内でスマホ・タブレットを活用し、調べ学習・意見共有・課題解決等に主体的に取り組む機会を設ける。 (2) 具体的指標 スマホ・タブレットの活用が授業の理解や学習効率の向上に役立ったと回答した生徒が ７割以上　… Ａ ５割以上　… Ｂ ５割未満　… Ｃ	B	・タブレットの使用が当たり前になり、課題の提出や資料の配付など活躍の場面は多い。今後は生成ＡＩの活用のルールなども考えていかなければならない。 ・タブレットの有用性が高いことは間違いない。教員がどれくらい使いこなせるかや、生徒が有効に使う場面を与えられるかがますます重要になってくる。とはいえ、ＡＩの使い方についてはどこまでが許容されるかが難しい問題である。 ・多くの先生の授業を見る中でスマホやタブレットの活用が多くある。役立っているかはアンケートをとるまで分からないが、積極的に活用できている。 ・今年受け持っている高校２年生の授業に関しては授業のスライドをクラスルームで共有しているので、生徒は分からないところも例題のスライドを見て一生懸命解いている。７割以上とは分からないが、タブレットの活用は多少役に立っていると思う。 ・語句調べや資料集の代わりとして利用。その場で確認できるためすぐ理解につながる。	B	・視覚優位の子どもが増えているので、タブレットの活用により、授業の内容がわかりやすくなるのであれば、大いに活用すればよいと思われます。 ・タブレットの使用がますます進むと思います。各自で用意するのは家庭の負担も大きいので、学校のものを使用させていただけたのはとてもありがたかったです。 ・時代もあり、タブレットの使用は良いところもあり、反面、今AIの問題視されていることもあるので、慎重に対応して欲しいです。簡単に答えを出せてしまうところでは、自分で考えてというやり方も必要と考えます。 ・デジタルの良さ、紙と手書きの良さを場面に応じて使い分け、わかりやすい授業を今後も展開していただきたいです。 ・字を書くこと、調べることも大切です。時にはアナログになってください。 ・生成AIの活用は、どの場面(教材etc)が有効なのか、検討していると思いますが、それが教師、生徒共に共有できているといいと思います。 ・AIの使用は世間でも、身近でも議論されています。 ・順心高校の教育は素晴らしいもの。人間力や礼儀は人工は教えてくれない。しかし、AIやIT活用はどんどん積極的に取り入れた方が良い。時代に取り残されている学校では良くない。専門の講師を活用する。
	キャリア教育の充実	(1) 具体的方策 総合的な探究の時間を通して、生徒が自己の興味・関心や価値観を踏まえて課題を設定し、探究活動と振り返りを繰り返すことで、自己理解を深めるとともに、進路選択や将来のキャリア形成につなげる。 (2) 具体的指標 総合的な探究の時間の活動が進路選択に役立ったと回答した生徒が ７割以上　… Ａ ５割以上　… Ｂ ５割未満　… Ｃ	B	・高校２年生は自分の好きからテーマを決めて総合的な探究の時間を行っており、好奇心と積極性を持って活動を進めている班はあるが、その一方でモチベーションを保ち続けるのが難しい班もある。今後はそういった班へのサポートが大切になってくると思う。 ・まだスタート段階ではあるが、担当の先生のご尽力が大きく、形になっている様子を感じる。 ・探究の授業で１年生の職場体験を通して様々な職種への興味関心が高まっていると考える。 ・進路選択につながっているかは分からない。	B	・探究の時間は、自己理解のための種まきの時間ですね。今後、どんな芽が出て成長するか楽しみです。 ・無駄な経験は一つもないので、多少の大小はあるものの、進路選択につながっていくと思われます。 ・教師や大人たちが想像力を働かせて引き出しを開けてくだされば、それがモヤッとした何かが鮮明になると思います。 ・学校や塾以外で多様な大人と接する機会を持つことは、社会のリアルを学ぶ上で一助になると思います。 ・１年生の早い時期からオープンキャンパスへの参加を進めてくださり、その大切さを３　年になった今実感しています。 ・７月にツインメッセでの開催された大学・専門学校の説明会イベントはとても良かった。学校のバスで移動させてもらったことで参加しやすかった。 ・総合型選抜での探究入試を選択可能にするには、早い大学は３年の夏休み前までに発表実績が必須になる。９月出願スタート。 ・職場体験の職種(バリエーション)を増やして欲しい。美デスタのクラスで、役所と工場と建築の体験で、興味ないと感じた。 ・なぜモチベーションを保てなのか？期間？内容？班の関係性？個人ではない？ ・どんな探究活動をしているのですか？生徒が楽しくやれていれば良いのかもしれません。

重点目標	評価項目	(1) 具体的方策 (2) 評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
④社会生活に適応する力の育成	「清楚・芳香・忍耐」の理解と実践	(1) 具体的方策 白梅精神に基づく教育目標「清楚・芳香・忍耐」の意味を理解させ、生徒一人ひとりが意欲的にとり組むことができるよう、初期指導やＨＲで目標を設定させる。 (2) 具体的指標 学期終了時に「Fujieda junshin check」で振り返りを行う。「よくできた」「できた」「あまりできなかった」で自己評価し、「よくできた」「できた」と評価する生徒が、 ７割以上　… Ａ ５割以上７割未満　… Ｂ ５割未満　… Ｃ	B	・前期の初めに学年集会やHRにおいて、教育目標「清楚・芳香・忍耐」を周知させ、理解に繋げてきた。 ・具体的な評価として、「Fujieda junshin check」を実施した。昨年度はYES、NOで評価したが、生徒自身の判断が甘くなるため「よくできた…３・まあまあできた…２・あまりできなかった…１」の３段階評価とした。 よくできたと回答した生徒が、全体で５５．５７%、 まあまあできたと回答した生徒が、３４．３３%、 あまりできなかったと回答した生徒が、１０．１０%であった。 まだ目標には届いていないため、本校のルーブリック（評価基準）を示し、教員間の共通理解のもとに指導を重ねていきたい。	B	・すばらしい教育目標だと思います。 「良くできた」「まあまあできた」の回答は89.9%と約９割に達しており高い水準です。ほとんどの生徒が目標を意識して行動できていることは、先生方のご指導の成果だと思います。 ・社会に出てから役に立っていることが多く見られていますので、今後も根づいていって欲しいと思っています。 ・順心の生徒は制服の着方、髪形など身なりがとてもしっかりしていて、見ていてとても気持ちがいいです。 ・挨拶についてですが、集団ならできるが、個人だとなかなかできないという実態が、どこの小中高でもあるように思えます。順心は集団でも個人でも挨拶できる学校であった欲しいと思います。 ・あまりできなかったと回答した子どもに理由を聞くことができれば、理解を深めるポイントが見つかるかもしれません。 ・私たち人間は他人に厳しく、自分に甘いと表現されます。 ・昔のようなカリスマ的な(個性の強い)先生はいないのかもしれないので、年に１回ぐらいは外部講師の話を聞くのもいいのでは？
	違反行為、問題行動の防止と指導	(1) 具体的方策 違反行為や問題行動は1報で情報共有し、生徒課会議において、指導方針を協議し、校長の指示を仰ぎ実施する。 (2) 具体的指標 生徒全員が安心・安全な校内生活を送れることを目指す。違反行為や問題行動を未然に防ぐように校則の確認をＨＲや長期休業前に必ず行い、規範意識の向上を目指す。 謹慎以上8件以内戒告20件以内　：Ａ 謹慎以上１５件以内戒告30件以内　：Ｂ 謹慎以上16件以上、戒告31件以上：Ｃ	B	・タブレットを導入して２年目、携帯電話も含め、生徒たちの意識がかなり変化してきたと感じている。スマホやタブレットが身近にあるのが当たり前で、偏った自己判断をしてしまう生徒が多くなってきた。スマホやネット関連の生徒指導がほとんどと言っても過言ではない。しっかりと校則を意識させることが重要である。 ・謹慎は1件、戒告は12件であり、数字的にはAの評価となるが、授業での使い方や放課後から帰宅までの携帯電話・タブレットの使い方については、生徒全員が理解するように指導していきたい。	B	・スマホ利用についてはリスクもあり、日常的な見守り、ご指導は大変ありがたいです。ですが、ご指導くださる先生方は大変だと思います。 外部専門家による授業を取り入れることも良いと思います。 ・スマホの使用について、子も家では長時間さわっていることがあるので注意しています。自分の子は大丈夫だろうではなく、問題が起きないよう改めて使用について確認していきます。 ・自己主義、我慢、見つからなければ…、という高慢さが災いしている。荒療治ではありますが、携帯不携帯日を設ける。 ・守れない子の気持ちを聞いてみたら。
⑤自己管理の育成	健康相談の充実と情報共有	(1) 具体的方策 健康相談の充実を図り、生徒の支援を行う。担任等と情報共有、必要に応じスクールカウンセラーとの連絡を密に行い、生徒の学校生活がよりよいものとなるようにする。 (2) 具体的指標 学期終了時に生徒課の反省表「教育相談項目」にて、教員（スクールカウンセラー含）に相談できる生徒が ５０%以上　… Ａ ２０%以上５０%未満　… Ｂ ２０%未満　… Ｃ	B	・スクールカウンセラーのアドバイスが生徒の安心感につながっている。 ・指導上医療にかかることや診断書の依頼について難色を示す保護者もいるため、難しさを感じている。引き続き、繰り返し説明を行い、理解を求めていく。 ・Fujieda junshin checkで、先生に相談する生徒数が少ない。生徒との信頼関係を築く手立ては日々構築されていくものである。日頃の声掛けや変化を見過ごさない教員の観察力を高めていかなければならない。 ・カウンセラーへの相談件数は増加傾向にあり、また、保健室や部活顧問へ相談していたりするので、教員間での情報共有は常に行っている。偏りが生じないよう、密に連絡・報告を行っていく。	B	・人間関係や進路のことなど、悩みを抱えている生徒は少なくないと思います。相談できるカウンセラーがいるのはとても大切で、良いことだと思います。 ・担任とカウンセラーが情報共有を徹底し、必要に応じて密に連絡を取り合うことは、学校全体の対応力向上につながり、良い連鎖が生まれると思います。 ・医療にかかること、診断書の依頼について、保護者の考えが大きく影響するので、先生方のご苦労をお察しします。高校生であれば本人自身の困り感がはっきり出ていると思われます。本人が一番楽になれる方法を、三者で考えられることを願っています。 ・担任に直に連絡できる方が良い。 ・悩ましいところですね。

重点目標	評価項目	(1) 具体的方策 (2) 評価項目を評価する具体的な指標	評価	成果及び来年度への取り組み	評価	学校関係者からの意見
⑥第一志望を目指させる指導	【進学】 実績の向上 ＆ 学力の向上	(1) 具体的方策 ア チューター制指導・看護医療系対策 ・小論文と面接（志望理由書）で担当を分ける。 ・小論文は得意分野を担当する。 ・指定校推薦の大学及び短大・専門学校は原則として担任が指導。 ・高3は4月から時事問題に興味関心を持たせるノート作り。 ・看護専門学校志望者に看護模試を受験させる。（年2回） ・看護志望者には１日ナース体験に参加させる。 (2) 具体的指標 ア （国公立大学＋中堅私立大学＋看護専門学校への合格者数）が（四年制大学＋看護専門学校への合格者数）の30%以上となるようにする。 （中堅私大とは河合塾全国偏差値47.5以上の大学とする。）国公立大学に5名以上、中堅以上の私大に10名以上合格させる。（中堅私大とは河合塾全国偏差値47.5以上の大学とする。） イ-1 模試で全国平均を超える教科が、総進はクラス人数の30%以上・特進は50%以上ある。 イ-2 英検準2級以上の取得者(高校生)または大学入試出願可能なスコア取得者（高３）が進学希望者の15%以上いる。 達成率　１００％　… Ａ 達成率　６６．６％　… Ｂ 達成率　３３．３％　… Ｃ	C	・進学実績、模試、英検は秋から冬にかけてピークになるため、個々に応じた指導をしていきたい。 ・具体的方策をどれだけ確実に実行できるかが大切である。 ・模試対策として、授業や宿題でも取り入れていく。 ・生徒の意識もさまざまであるうえに受験方法によって必要な準備も変わってくるので、個別対応が多くなるが、学習環境や雰囲気づくりは大切にしていきたい。 ・チューター制指導は、受験校が決まらないと実施できない。早めに対策ができるように、３年生の始めには志望校を決定していくよう今後変えていきたい。 ・現在は、具体的方策を実行中であり、具体的指標での評価ができないため、評価をＣとしてある。	C	・早めの対策は生徒も先生にも余裕が生まれるため、是非お願いします。 ・進路のことでは面談の時にいろいろとアドバイスをくださり、とても感謝しています。面談以外でも声をかけてくださったり、小論文を見てもらう先生を紹介していただいたり、心強く思いました。 受験校の決定については、親としてももう少し早くから学校の特色など調べていれば良かったと思っています。 ・親から子への伝達が無く、進路の情報を得にくい。２年次（１年次）から保護者への発信も欲しい。 （アプリ）３年の初めに志望校を決定は大事。そのために…。 ・検定（特に英検）は「秋から冬にピーク」は遅いと感じます。評定平均や検定の取得を内申書に反映させるには、８月末までに十分な成績を出しておく必要がある。３年になってから成績を意識するのは遅い。１、２年生の早い時期から定期テストや検定試験の重要性と取り組みを伝えていくべき。 ・自分の子の反省としても思うこと（親がすすめてしまった）で、最後まであきらめなかった子が（思念があるので）、良い結果につながっている。本気で取り組んで欲しい。 ・学校、教師の熱量を感じます。順心生のレベルは確実に上っていると感じています。どうか生徒の良いところを１つでも褒め、引き伸ばしてください。それが自信となります。・模試結果の分析、その後の具体的な取り組み方法のサポートをしていただけると心強いです。 ・小論文、志望理由書、面接回答などAIを活用したらいかかでしょう。小論文などAIは上手に添削してくれます。 中学校の進路選択の際は、高校の進路実績がが大きく影響します。中学生にいかにアピールできるかが大切になってくると思います。
	【就職】 「自分で選んで就職先を決めた」と実感できる指導	(1) 具体的方策 ア 生徒への企業情報の提供 ３月 校外で実施される企業説明会への参加を呼びかける。 ５月 企業との情報交換会で得た資料を生徒に提供する。 ６月 オンライン企業説明会を学校で視聴させる。 イ 求人票を初日からＷｅｂ上にアップ (2) 具体的指標 ア アンケートの実施 ・内定者へ実施する。 ・生徒への情報提供及び指導内容、生徒自身の就職活動に満足していか１０項目の内容とする。 イ 判定方法 アンケートで就職先を自分で選んだと実感できた生徒が ・１００％、かつ内定先を自分で選んで受験を決めたかの質問に全員が「自分で決めた」と回答した場合 … Ａ ・８０％以上 … Ｂ ・８０％未満 … Ｃ	B	ア 生徒への企業情報の提供 ３月 校外での企業説明会への参加呼びかけ（１・２年生） 武道館　１９人参加 シーガルドーム　８人参加 ５月 企業資料の生徒への提供 企業パンフレットを８階フロアに展示 ６月 オンライン企業説明会 １９人（３３社）が参加 イ 求人票を初日から公開 ７月１日からＷｅｂ上にアップ（７月３日までに１３４票） 最終的に１８２票をアップした。 ◎自分で就職先を決めるという意識 夏休みの就職活動を通して、今年は企業見学及び受験企業の選択に保護者の強い意思が働いているように感じた。 保護者が勤務している企業や知名度が高い企業を選ばせる状況が見られた。	B	・社会に慣れていない高校生にとって、就職先選びは難易度が高い挑戦です。最初から一人で完璧に決める必要はなく、周囲が選択肢を広げる手助けをしながら、本人が自分で考えることが大切だと思います。 ・決定までの情報不足、期間の短さが、親を焦らせているのでは？子の意識の低さかも。自主的な選択を増やしたければ、こちら側もそれ相応の準備が必要。生徒にとっては初めてのこと。未知のこと。将来への意識は低い子が多いはず。時間がかかる。親が就活してしまうのは仕方ない。就職するのは子。答えを出すのも子でありたい。答えを先に出してしまう親が多い。就職の細かいことがわかる年齢ではない。親がサポートする。 ・自分で就職先を決めるというのは、大切なことだなと思いました。どうしても親が口に出してしまうと思うが、子どもの意見を尊重させたいと思います。 ・実際に仕事をするのは本人。入ってから違ったとならないためにも自分で選択することは大事かと思うが、全部を理解するのはなかなか難しい年齢ではあるので、だからこそ保護者の協力は必要だと感じます。 ・１、２年生のうちから企業説明会へ参加できるのは、とても良いと思います。 ・知名度の高いところに就職してほしいと願う親心については、十分理解できます。しかし、あくまでも決定権は生徒にあるので、生徒の気持ちを大切にして欲しいです。 ・学内での行事など、自主的にできているのだから、先生（大人から）のちょっとしたヒントで成功できる。自分の人生だから…。